弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では，下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で，情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は，下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	口腔癌患者において上顎骨部分切除術を行う際にポリグリコール酸シート及びフィブリン糊を併用し上顎洞を閉鎖した症例の後ろ向き検討			
2. 対象患者	当科で上顎骨部分切除術を施行した口腔癌患者さんが対象となります。			
3. 対象となる期間	2016 年 1 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日			
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院歯科口腔外科			
5. 研究責任者	氏名	田中 祐介	所属	弘前大学大学院医学研究科 歯科口腔外科学講座
6. 共同研究機関 （共同研究機関研究責任者）	該当事項はありません。			
7. 研究の意義	上顎骨部分切除術は術後に口腔と鼻腔・副鼻腔とがつながることが多く、そのため食べ物が飲み込みにくい、声が鼻から漏れるなど機能障害を来しやすいです。通常、鼻腔・副鼻腔とつながった部分は特殊な義歯（顎義歯）で閉鎖します。また、進行した口腔癌の症例では、身体の他の部位の組織を移植する方法（皮弁再建術）を行う場合もあります。 当科では、初期の口腔癌に対して特殊な器具を用いて上顎の粘膜を温存し、吸収性の人工被覆材と生体組織接着剤とを併用することで口腔と鼻腔・副鼻腔とがつながらないような術式を行っています。これにより、鼻腔・副鼻腔とつながる部位を閉鎖することができれば、顎義歯ではなく通常の義歯が装着できるため、より術後の機能障害を減らすことが可能となります。 この術式で使用している人工被覆材や生体組織接着剤は、顎口腔領域においても以前から使用されているものではありますが、本術式のように上顎骨部分切除術の際に鼻腔・副鼻腔とつながる部位を閉鎖するために使用している施設は、全国的にもまだ多くはありません。 本研究により、顎義歯や皮弁再建術を行う場合と比較し、本術式の有用性が示され選択基準が明確となれば、より多くの患者様で本術式を使用することにより、少ない手術侵襲で術後の機能障害を軽減することができ、患者さんの生活の質の向上に貢献できるものと考えられます。			
8. 研究の目的	上顎骨部分切除術を行う際に、人工被覆材と生体組織接着剤とを併用する術式の明確な選択基準や予後の予測因子を検討することを目的としています。			
9. 研究の方法 （使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等）	使用する情報は，当科でこれまで口腔癌に対して上顎骨部分切除術を施行した患者さんのカルテから抽出されます（臨床診断名、ステージ、初診時腫瘍径、臨床視診型、画像による骨吸収像の有無・深達度、生検結果、手術方法、経口摂取開始時期、上皮化の時期、病理組織検査による組織型・YK分類・骨浸潤有無、観察期間および再発・転移の有無等）。			
10. 個人情報の保護	収集する情報は、患者さん個人を特定できないよう匿名化して保存し、解析を行います。研究結果を発表する場合においても個人を特定できない形式で公表します。 対象患者さんより拒否の申し出があった場合は研究対象から除外し、データを削除します。ただし、研究結果が発表済みの場合等はデータを修正することはできませんのでご了承ください。			
11. 利益相反に関する状況	開示すべき利益相反はありません。			
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科　歯科口腔外科学講座　田中祐介			
	電話	0172－39－5127	FAX	0172－39－5128